

## ESTRO 報告記

末藤大明, 江藤英博, 鈴木弦, 早渕尚文

2010年9月12日～16日の期間, スペインはバルセロナでESTROが開催され, 4名で参加させていただきました。私, 末藤は隔年で参加し, 今回が4回目のESTROでした。先の2回は私のみの演題発表でしたが, 前回は淡河先生と私で2題, 今回は私, 江藤先生, 鈴木先生の3題と徐々に演題発表数も増加し, 久留米大学放射線治療センターは徐々に世界に羽ばたいてきています(図1)。ESTROは放射線治療の分野では世界で二番目に大きく由緒ある国際学会としてしられ, 私が入局した頃は, 放射線治療で海外学会など夢のまた夢という雰囲気だったのを懐かしく思います。今回のESTROは, 前向き試験の報告が数多くあり, 個人的にはドイツのグループが発表していた, 二次発癌の危険が言われるHodgkin病で放射線治療の線量を落とす臨床試験の結果に興味を覚えました。留守中, 治療センターを守っていただいた淡河先生, 服部先生, 渡邊先生ならびに医局・同門の先生方大変有難うございました。大変勉強になった学会で, 参加した4人とも大満足でした。

堅苦しい話はこれくらいにして, 恒例の道中記とさせていただきます。

### 1) 語学力

早渕教授とは別便でスペインに行きましたので, 教授以外の3人に行きの飛行機で屈辱的なことがありました。我々3人が横並びで着席すると, CAさんが飛んできて甲高い大声でぎゃーぎゃーまくし立てます。うるさかったのでYes! Ye--s! Yes! と生返事をしていると, 上司らしきチーフパーサーまでもがやってきました。Can you understand my speaking . . . ? どうやら非常席に着座していたようで, 緊急脱出時の手伝いをしてもらうには語学力が足りないと言いたい模様。3人そろって数列後ろのお客さんと交代させられました。英語力のなさを痛感しましたが, 安全, 脱出としつこく言われたので, 嫌みを込めてIs this plain safety?と聞いた所, Of course!と即答されました。一部周りの客が爆笑していました。

学会で英語に耳が慣れたためか, 帰りの飛行機では座席を変えさせられるという屈辱を受けることなく帰国することができました。私は爆睡しておりその事実全く気がつきませんでした。帰りの飛行機内では急患が発生した模様で, 医者を捜す機内放送がありました。見事に江藤先生が対応されたそうです。さすが病棟医長です。お礼に記念品をもらわれたそうです。鈴木先生は帰りの飛行機で眠れなかったそうですが, 機内放送に気がつかなかったそうです。一体どういうことかしらん。

### 2) 小旅行

学会会場にいるばかりが学会でなく, 少しは観光するくらいのゆとりが必要だと早渕教授

の有り難いお言葉に甘え、電車で半日程度の小旅行をすることにしました。後の半日はバルセロナ観光です。

スペインキリスト教の聖地とされる **Montserrat**(モンセラット、モンセラ)を目的地に設定しました。一時間に一本しかない電車に乗り、途中登山電車かロープウェイで山頂に行くことができます。折角なので行きは登山電車、帰りをロープウェイにしました。登山電車では、800メートル程度の標高を15分程度で登ります(山の標高は1236m)。傾斜が強く、車体自体も斜めに造ってあります。ケーブルカーと思っていたら、江藤先生がケーブルではなく、歯車式(ジッパー式)だと興奮していました。モンセラはのこぎり山という意味で、礫岩など岩石からなっており、遠くからみるとまさにのこぎり歯のようです。山頂は非常に大きな修道院があり、エスコラニア少年合唱団による歌声が神聖さに輪をかけます。これはウィーン少年合唱団より歴史ある少年聖歌隊とのことで、合唱が始まると千人を超える人々が教会に詰めかけていました。あまりのすばらしさに、世界遺産に違いないと思っていたら、登録されていないとのこと。教授は現地で知り合った女性と写真に収まりご機嫌でした(図2)。モンセラでは鈴木先生が迷子になってしまいました。こんな時のためにと携帯を持参していたはずですが、ならしてもお出にならず、仕方ないので帰りのロープウェイ乗り場まで行きましたがいらっしやいません。待てども待てども姿はみえず、乗るはずだったロープウェイは我々を置き去りに出発してしまいました。帰りの電車に間に合うかしらとはらはらし、全館放送をかけてもらうかと考え出した頃、汗だくの鈴木先生が走ってこられました。教授を待たせたと自責の念から山の中腹まで走っていったそうです。結果的に無事に帰ることができたからよしとしました。

### 3) バルセロナ観光+α

半日は、江藤先生、鈴木先生、教授でバルセロナ市内観光にいかれました。バルセロナはスペインの首都マドリッドよりも観光資源に富み、観光客が最大の都市だそうです。美術館だけでも、ピカソにダリ、ミロなど芸術音痴の私でも聞いたことがある人々を排出した地域です。前日夕方に寄ったサクラダファミリアでの人の多さと、高所恐怖で辟易していたこともあり、即物的でお酒が嫌いでない私はスパークリングワイン工場へ見学と試飲に行きました。日本で調べた情報ではバルセロナ近郊にはゴドルニウ(Codorniu)、トーレス(Torres)、フレシネ(Fierxenet)の3社がワイナリー見学をしており、駅から近いフレシネ社に予約しました。フレシネは日本でもみかけますが、シャンパン(厳密にはシャンパーニュ地方ではないので、CAVA という)メーカーです。作り方はシャンパンと同じで、数種類の葡萄を配合し、瓶内二次発酵させるようです。降りる駅を間違え夕方遅めに着いたため、英語のコースは終了していました。仕方なくドイツからの修学旅行生と一緒にドイツ語コースで回りました。工場の洞窟内発酵所?に入ると発酵ブドウのあまーいアルコール香が

皮膚から吸収されそうで、そこにいるだけでうっとりいい気分(図 3)。ドイツ語で何を言っているかちんぷんかんぷんだったけど、説明してくれた女性の彼氏さんが日本語勉強中とのこともあり、色々と教えてくれました。葡萄農場と工場見学が終わると試飲です。ドイツの修学旅行生達は未成年のようで、ブドウジュースを一杯ずつのんで撒収していきました。私は試飲のネグロに始まり、上記女性一番のおすすめ CAVA で舌鼓をうち、日本から持参したおつまみを頬張り、30年以上瓶内発酵したものなど日本未発売の CAVA をたらふく飲んでぐでんぐでん。どうやってホテルまで帰り着いたか・・・まあ、治安の悪いスペインでスリや追いはぎにあうこともなく無事に帰ることができて何よりでした。因みに日本での販売代理店はサントリーとのこと。日本のサントリービール工場見学より良かったと褒めちぎってきました。ワイナリー見学は初めてだったので、受付で聞いてみると当日300人以上が見学したそうですが、日本人を含めてアジアからは私一人だった模様です。海外ではメジャーな観光コースなのかもしれません。世界中にワイナリーツアーがありますので、先生方も海外に行かれた際には是非試みられてください。

#### 4)その他

個人的に、海外学会で恒例としている散髪にも行きました。これまでは間違っってホモ専門店に散髪してもらったり、入れ墨屋さんで切ってもらったりと苦難の連続でした。スペインでは日頃見慣れた青赤白の三層構造が床屋のマークであり、日本同様に散髪後の洗髪という流れであまり面白くありませんでした。18ユーロと日本より割安でした。海外で散髪すると、現地人っぽい髪型となるのか、今回も散髪直後に旅行者から道を聞かれました。スペインまで行き、いべり子豚を食べず、フラメンコと闘牛をみるができなかったのが若干の心残りですが、街角に点在しているバルでたくさんアルコールを摂取することができました(図 4,5)。

以上、学会報告記とさせていただきます。学会自体の記述より、一日観光した記載の方が多くなってしまいました。人間の記憶とは楽しかったものを誇張して覚えるものです。当然ですが遊んだ以上に勉強してきたつもりです。次回は服部・辻先生も演題を出してくれることを祈ります(二年前にスウェーデンに行った後、次は自分で演題出すと言った事は覚えてますよ)。今回 ESTRO で学んだ多くの事々が我々の臨床に反映されますように。

図1: 学会場にはちゃんと行ってます



図2: モンセラで知り合った女性と写真に写り笑みがこぼれる教授



図3: 二次発酵中の酒樽に囲まれる末藤



図4: 街角のバルで乾杯！(お相手は?)



図5: 江藤先生でした

